

## 埋戻し後の安全対策の問題点と対策案

埋戻し後の跡地の安全を担保できる温泉井戸の埋戻しの方法を定めることが重要であるが、不完全な工事が実施される可能性も否めない。井戸孔内の埋戻しの状況については、工事施工の状況から比較的容易に確認することができる。しかしながら、温泉井戸では、フルホールセメンチングが行われていないことが多く、アニュラス部分から可燃性天然ガスが地表に漏れ出すおそれがある。また、鉱山井戸と異なり、温泉井戸が埋戻された後、土地は別の事業者を引き継がれることが多く埋戻された土地が再利用される場合、井戸の埋戻しに関する情報が適切に引き継がれないおそれもある。

したがって、埋戻し後の安全確認の方法や、安全対策を策定する必要がある。埋戻し後の安全対策を講じる上では、以下の対策が考えられる。

対策 1 埋戻し工事後に可燃性天然ガスが地表に漏れ出していないか検査を義務付ける

地表付近ではガスが拡散するため、井戸近傍の土壌ガス調査が効果的であるが、どの程度の期間、どの程度の頻度で調査を行うか検討する必要がある。また、調査結果の報告義務を定める等、確実に測定が行われるよう方策を検討する必要がある。

対策 2 掘削時にフルホールセメンチングを義務付ける

掘削前に、温泉井戸から可燃性天然ガスが発生するかどうか確定することはできないので、フルホールセメンチングを行うべき井戸がどのような井戸であり、どの深度までフルホールセメンチングを行うか判断基準を示す必要がある。

対策 3 井戸埋戻しに関する情報を公開する

井戸埋戻しの方法や工事後の検査の状況等を公開することにより安全な土地利用がされるよう促す。しかしながら、だれがどのように公開するか問題であり、行政等が資産に関する情報を公開することが可能であるか検討が必要である。